

ポラリス通信 H27.10.21~22

10月21日~22日にかけて、18回生40名は二本松市にある福島県男女共生センターで高齢者擬似体験を行いました。ペアで体験者と介助者に分かれ、体験者は視野狭窄と白内障をイメージした眼鏡や、腕・膝を曲げにくくするサポーターなどの装具を身に付け、与えられた指示書の内容(ハサミを使って紙を切る、豆を別皿に移動させる、申込書を書く、買い物をする、などなど…)をすべて利き手とは逆の手で体験しました。介助者は体験者の安全に留意し、必要に応じて援助しました。いつもの何気ない動作ひとつひとつが難しく感じられ、身体機能が低下した高齢者の気持ちに少し近づくことができ、また学生の高齢者に対する思いやりの心がさらに養われたことと思います。

擬似体験を行った後、約750点もの福祉用具がある福祉機器展示室の見学をしました。車椅子に乗ったまま階段を上り下りすることができるキャタピラー式の機械や、ベッドに寝たまま排泄後のおしりを自動で洗う洗浄機など、驚くような最新の福祉用具を紹介していただきました。

今回体験させていただいたことを忘れず、今後の学習に活かしていきたいと思っています。

指示書内容
まず一つ目は…



がんばれ~~!

最新福祉用具を見学

